

文部科学省
平成21年度 国際開発協力サポートセンター・プロジェクト

**青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」
による派遣教員の社会貢献と
組織的支援・活用の可能性**

佐藤真久¹
¹京都市大学 環境情報学部 (m-sato@tcu.ac.jp)

※1: ○N教諭(ドミニカ・小学校教諭)、2: ○M教諭(ブータン・体育教師)、3: ○S教諭(ベトナム・小学校教諭)、
4: ○O教諭(フィリピン・小学校教諭)、5: ○P教諭(ホンジュラス・小学校教諭)

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究のプロジェクト構成

文部科学省 平成21年度 国際開発協力サポートセンター・プロジェクト

**青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による
派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性**

《課題研究代表》
佐藤真久(京都市大学)

《研究顧問》
斉藤泰雄(国立教育政策研究所)

《研究協力者》
竹内啓三(関西大学)
村松 隆(宮城教育大学)
久保田賢一(関西大学)
丸山英樹(国立教育政策研究所)
小路克雄(国際協力機構青年海外協力隊事務局)
白井健道(国際協力機構青年海外協力隊事務局)

《研究協力組織》
国際協力機構(JICA)
全国都道府県の全教育委員会(47組織)
政令指定都市の全教員委員会(18組織)
筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)
宮城教育大学
鳴門教育大学
筑波大学附属小学校
兵庫OV教員研究会
関東教育支援ネットワーク

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

本調査研究報告書の読者層

文部科学省 平成21年度 国際開発協力サポートセンター・プロジェクト

**青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による
派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性**

【主な読者層】

- 都道府県・政令指定都市・市町村の教育委員会
 - 一人事部署をはじめとする国際教育活動(特にJICA青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」)を担当する職員
 - 教員の能力開発やキャリアパスの構築を担当する職員
 - 国際化、国際教育、国際協力などの推進を担当する職員
 - 定任外国人児童・生徒を多く抱える都市の教育委員会や学校関係者
- 関係教員・教員
 - 一初等中等教育段階の現職教員で同制度に関心のある教員
 - 一現職教員帰国隊員

※教育センターの研修をはじめ、教育委員会主催の研修や国際理解研究会、各教科研究会、
などにおいて本報告書の活用に向けた具体策の検討をしていただきたい。

■教員養成大学、大学、教職大学院
■地域との連携のもとでその効果的普及を目指す国際協力機構(JICA)の国内機関

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

青年海外協力隊と
現職教員特別参加制度

・青年海外協力隊(JOCV)

「自分の知識や技術を活かし、開発途上国とその人びとのために貢献したい」という意欲と
情熱を持つ青年(20~39歳)を公募し、派遣する国の制度

・現職教員特別参加制度
教育委員会・文科省から推薦、1次技術試験免除
4月に学校を離れ、2年間参加、翌年度の3月末に復帰

・派遣実績 (人数)

派遣年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
応募者数	158	177	147	164	183	167	147	144
派遣者数	63	56	64	83	87	84	80	83

H20及びH21は日系社会青年ボランティアも含む

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要
—その研究背景

**■青年海外協力隊現職教員特別参加制度による
教員の派遣実績と組織的支援・活用の脆弱性**

- 派遣者数は600名に近づく(平成14年度以降)。
- 帰国後に、途上国における海外教育経験の教育現場や地域社会への還元を社会に期待
- 組織的支援・活用する体制はまだ未整備

■教育委員会等における組織的支援・活用にむけた試みの重要性

→動向と事例を取りまとめ、教育委員会などの関連機関へ提供
→JOCV海外教育経験教員による教育現場等への社会還元・貢献をより組織的に支援・活用していただくための一助。

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要
—その研究目的

JOCV海外教育経験教員による還元・貢献活動※1)の動向や具体的な活動事例に関する情報、組織的支援・活用事例を、経験教員、所属学校長、教育委員会・自治体、関連支援組織から収集し分析

- 現況把握(実施動向と事例の把握)
- JOCV海外教育経験教員が国内外の社会に還元・貢献できる潜在性・可能性の把握
- 「現職教員特別参加制度」の推進や、経験教員の組織的支援・活用にむけた課題の整理、展望の共有

※1:「還元・貢献活動」とは、途上国での海外教育経験を国内外のさまざまな活動に活かすことを意味する

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —全体の構成—

【調査1】
教育委員会
による取組の
動向調査・事例調査
(アンケート調査)
(事例調査)

【調査1-1】
教育委員会
対象
アンケート

【調査1-2】
教育委員会
対象
事例調査

【調査2】
経験教員と所属学校による
取組の動向調査
(アンケート調査)

【調査2-1】
経験教員
所属学校長
対象
アンケート

【調査2-2】
経験教員
対象
アンケート

【調査3】
経験教員による取組の
事例調査
(インタビュー調査)

【調査4】
経験教員の活動推進
にむけた支援体制の
構築事例調査
(事例調査)

【調査4-1】
支援組織
対象
事例調査

【調査5】 主要なアクターを巻き込んだ研究調整連絡会の開催・議論：
 (1) 現況把握(実施動向と事例の把握)、
 (2) JOCV海外教育経験教員が国内の社会に還元・貢献できる潜在性・可能性の把握、
 (3) 現職教員特別参加制度の推進や組織的支援・活用に向けた課題の整理・展望の共有

※1: 〇T(東京)シンポジウム(体育教育)

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —各調査の概要—

【調査1】
教育委員会
による取組の
動向調査・事例調査
(アンケート調査)
(事例調査)

【調査1-1】
教育委員会
対象
アンケート

■調査目的: 「現職教員特別参加制度」に対する教育委員会の認識の明確化と、動向・課題の抽出。

■調査対象: 47全国都道府県と18政令指定都市の教育委員会(65組織)

■調査方法: アンケート調査

■調査実施時期: 2009年10月～11月末

■調査実施結果: 調査対象全組織回答(65組織)
回収率:100%

【調査2】
経験教員
所属学校長
対象
アンケート

■調査目的: 海外教育経験教員を支援・活用している教育委員会の好事例を把握。

■調査対象: (教育委員会)
北海道、埼玉県、埼玉県立総合教育センター、横浜市、愛知県、京都市、大阪府、兵庫県、愛知県

■調査方法: 書面での事例報告形式

■調査実施時期: 2010年1月～2月

■調査実施結果: 調査対象全組織回収(9組織)
※調査対象選考にあたっては、
【調査1-1】のアンケート調査に基づく

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —各調査の概要—

【調査2】
経験教員と所属学校による
取組の動向調査
(アンケート調査)

【調査2-1】
経験教員
所属学校長
対象
アンケート

■調査目的: JOCV海外教育経験教員の所属学校長による「現職教員特別参加制度」に対する認識と経験教員の支援・活用に向けた動向把握

■調査対象: 経験教員所属学校長

■調査方法: アンケート調査

■調査実施時期: 2009年10月～11月末

■調査実施結果: 配布数:572 回答数:75名
回収率:13.1%

【調査2-2】
経験教員
対象
アンケート

■調査目的: JOCV海外教育経験教員の動向把握

■調査対象: JOCV海外教育経験教員

■調査方法: アンケート調査

■調査実施時期: 2009年10月～11月末

■調査実施結果: 配布数:572 回答数:124名
回収率:21.6%

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —各調査の概要—

【調査3】
経験教員による取組の
事例調査
(インタビュー調査)

■調査目的: 「現職教員特別参加制度」による派遣教員の還元・貢献活動事例とその背景、障害・貢献要因、展望について把握。

■調査対象: 経験教員20名

■調査方法: インタビュー調査

■調査実施時期: 2009年11月～2010年1月

■調査実施結果: 経験教員20名
※調査対象の選考にあたっては、
多様性に配慮。

【調査4】
経験教員の活動推進
にむけた支援体制の
構築事例調査
(事例調査)

【調査5】
支援組織
対象
事例調査

■調査目的: 経験教員の活動推進にむけた支援体制の構築事例の把握。

■調査対象: 支援体制を有する組織(7組織)
事例調査

■調査方法: 事例調査

■調査実施時期: 2010年2月

■調査実施結果: 支援体制を有する組織(7組織)
(国庫協力機構、宮城教育大学、筑波大学、専門教育大学、筑波大学附属小学校、兵庫県教育研究、関東教育支援ネットワーク)

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —各調査の概要—

【調査5】
主要なアクターを巻き込んだ研究調整連絡会の開催・議論:

■会合目的: (1)各調査の分析結果の共有と本研究報告に基づく議論、(2)報告書ドラフトの修正案・改善案の提示、(3)本制度を活用している教育委員会の取組事例の共有と今後の展望に関する議論、(4)制度の効果的推進にむけた経験教員からの意見・提案の収集、(5)現職教員特別参加制度経験者の支援・活用に向けた意見交換、(6)本制度の組織的推進にむけた意見交換

■会合参加者:
 ● 都道府県・政令指定都市 教育委員会:
 ● 経験教員:
 ● 研究協力者:
 ● 国庫協力機構(JICA):
 ● 文部科学省大臣官邸国際課:
 ● 文部科学省初等中等教育局国際教育課:
 フォーカスグループ・ディスカッション

■会合形態: 文部科学省
 開催場所: 文部科学省
 開催時期: 平成22年3月1日(月曜日)

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査研究の概要 —本調査研究の有効性と制限—

■有効性

■【調査1】—教育委員会対象
 一都道府県・政令指定都市教育委員会の全組織回答
 一切の教育委員会取組事例の共有、など

■【調査2】—経験教員、所属学校対象
 一切の所属学校対象の調査
 H19評価調査の質問項目との整合性、など

■【調査3】—経験教員事例
 インタビューの質の確保(時系列・非構造化)、
 一時間をかけたインタビューの実施、など

■【調査4】—支援組織・体制の事例
 多様な主体の事例収集、など

■【調査5】—研究調整連絡会
 一調査分析に基づく関係機関との対話、など

■制限

■【調査1】—教育委員会対象
 一市町村教育委員会対象の調査欠如(初等教育段階の経験教員の現況把握の脆弱性)
 一多様な質問項目に対する部課横断的対応の難しさ、など

■【調査2】—経験教員、所属学校対象
 一回収率の低さ(調査の実施方法・配布ルート
 の課題、回答にむけた時間的・精神的余裕)、
 など

■【調査3】—経験教員事例
 一直接する障害要因の多さを踏まえた事例の
 意味合い、活動背景の把握の難しさ、など

■【調査4】—支援組織・体制の事例
 一多様な支援組織・体制の存在(継続的調査
 の重要性)、など

■【調査5】—研究調整連絡会
 一会合における時間的制約、など

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-1]

調査分析報告 [調査①-1]

(教育委員会対象・アンケート調査)

■調査目的: 「現職教員特別参加制度」に対する教育委員会の認識の明確化と、動向・課題の抽出。

■調査対象: 47全国都道府県と18政令指定都市の教育委員会(65組織)

■調査方法: アンケート調査

■調査実施時期: 2009年10月-11月末

■調査実施結果: 調査対象全組織回答(65組織)
回収率:100%

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-1]

調査分析報告:[調査①-1]

(教育委員会対象・アンケート調査)

■問1: 青年海外協力隊及び日系社会青年ボランティア(以下、「青年海外協力隊等」)現職教員特別参加制度参加希望教員のとりまどめに關して、貴教育委員会としての何らかの意義を感じておられますか。(複数選択可)

■問2: 貴教育委員会が中心となって、青年海外協力隊等を経験した教員が、帰国後にその経験や成果を児童生徒、他の教職員、その他の方々に還元・貢献するような機会作り組織的に取り組まれていますか。

回答	回答数
i 未だて教員個人の能力の向上	30
ii 関係者への協力、国際貢献のため	48
iii 教員の資質向上のため	54
iv 異文化理解能力の育成のため	7
v 在留外国人児童・生徒に対応できる人材の育成のため	12
vi その他	0
合計	151

■ ①取り組んでいる
 ■ ②取り組んでいない
 N=65

> 派遣教員に対する社会貢献・還元への高い期待
 > 組織的に機会づくりがなされていない実態

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-1]

調査分析報告:[調査①-1]

(教育委員会対象・アンケート調査)

■問10: 青年海外協力隊等を経験した教員は、日本の学校教育のどの分野において経験の還元・貢献が期待できると考えていますか。(複数選択可)

> 総合学習・外国語活動・キャリア教育・進路指導・外国籍児童生徒対応等への高い期待
 > 学校外活動(ボランティア活動)・習得言語を活かした活動への期待

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-1]

調査分析報告:[調査①-1]

(教育委員会対象・アンケート調査)

■問15: 現職教員が国際協力を実践することにより、教員自身の能力開発と共に、日本の教育現場に与える効果として、次の5つの効果が想定されていますが、特にどの効果に期待していますか。(複数選択可)

> 「内なる国際化」「日本の教育への再認識」「指導能力向上」等への高い期待

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-1]

調査分析報告:[調査①-1]

(教育委員会対象・アンケート調査)

■問17: 青年海外協力隊等に教員を派遣した場合、帰国後に貴教育委員会がその成果を把握するための機会を設けていますか。(複数選択可)

■問18: 派遣された教員の現地での活動の成果を、貴教育委員会において評価し、それを帰国後の人事に反映させていますか。

> 経験教員の成果把握のための機会の脆弱性
 > 経験教員の人事的配慮の脆弱性

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査①-2]

調査分析報告 [調査①-2]

(教育委員会対象・事例調査)

■調査目的: 海外教育経験教員を支援・活用している教育委員会の好事例を把握。

■調査対象: 北海道、埼玉県、埼玉県立総合教育センター、横浜市、(教育委員会) 愛知県、京都市、大阪府、兵庫県、愛知県

■調査方法: 書面での事例報告形式

■調査実施時期: 2010年1月-2月

■調査実施結果: 調査対象全組織回答(9組織)

■備考: ※調査対象選考にあたっては、[調査①-1]のアンケート調査に基づく

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告:[調査①-2]
(教育委員会対象・事例調査)

教育委員会	活動・施策・制度
北海道教育委員会	青年海外協力隊への現職教員の派遣に係る派遣枠確保について
埼玉県教育委員会	JICA地球ひろばへの長期研修教員派遣
埼玉県立総合教育センター	初任者研修における青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」経験者の活用
横浜市教育委員会	帰国者の外国籍児童生徒の多い学校への配置
愛知県教育委員会	特別選考(社会人・青年海外協力隊員特別選考)
京都府教育委員会	日本語指導が必要な子どもたちの指導に生かすために - 教員をブラジルに派遣
京都市教育委員会	『京都市国際教育・グローバルキッズ研究会』
大阪府教育委員会	『京都市国際化推進プラン』に沿った教員派遣
兵庫県教育委員会	在外教育施設やITプログラム開発者の組織(REX-NET)による活動
愛知県教育委員会	帰国報告会(文部科学省在外教育施設派遣教員)・多文化共生・国際教育セミナー
愛知県教育委員会	JOCV海外教育経験教員の帰国後の還元事例-人材バンクの活用を調べて

■自治体施策とのリンク(京都市)
 ■人事措置(北海道、横浜市)
 ■組織連携(埼玉県)
 ■ネットワークと知見蓄積(大阪府、京都市)
 ■資源構築(愛知県)
 ■経験者の活用(埼玉県、兵庫県)
 ■外国籍児童生徒対応(横浜市、愛知県)

>多様な地域社会のニーズに基づき、経験教員の支援・活用に向けた組織取組

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告
[調査②-1]

(所属学校長対象・アンケート調査)

■調査目的: JOCV海外教育経験教員の所属学校長による「現職教員特別参加制度」に対する認識と経験教員の支援・活用に向けた動向把握

■調査対象: 経験教員所属学校長

■調査方法: アンケート調査

■調査実施時期: 2009年10月-11月末

■調査実施結果: 配布数:572 回答数:75名
回収率:13.1%

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告(抜粋):[調査②-1]
(所属学校長対象・アンケート調査)

■質問(1)「青年海外協力隊」ならびに「日系社会青年ボランティア」に「現職教員特別参加制度」が存在することをご存知ですか。

■質問(5)JOCV海外教育経験教員が還元・貢献活動ができていない理由

時間的制約	<ul style="list-style-type: none"> 時間的制約(5回答) 還元・貢献機会の欠如(2回答) 学校の実態体制の不整備(2回答) 国際教育・国際理解教育への低い優先順位(2回答)
学校属性	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害教育特別支援学校のため活動が困難(4回答)
経験教員自身の問題	<ul style="list-style-type: none"> 経験教員自身の積極性の欠如(1回答)
コミュニケーション欠如	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション不足(1回答)

>学校長による制度に対する高い認知度
>経験教員を取り巻く様々な阻害要因の認識

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告(抜粋):[調査②-1]
(所属学校長対象・アンケート調査)

■質問(7)-i 現職教員特別参加制度の経験者は、日本の学校教育のどの分野において経験の還元・貢献が期待できると考えますか。(複数選択可)

>総合学習・キャリア教育・進路指導・外国語活動・外国籍児童生徒対応等への高い期待
>体験報告・学校外活動(ボランティア活動)への期待

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告(抜粋):[調査②-1]
(所属学校長対象・アンケート調査)

■質問(10)-i 現職教員特別参加制度での派遣を経験された先生が貴校に現在在籍する場合、その派遣中に現地と結んだ国際理解教育や国際交流などを実施しましたか。

■質問(10)-ii 当時の学校長ではない場合、もし貴校に在籍する先生が現職教員特別参加制度で現在派遣中であると仮定して、彼等を活用した教育活動を実施してみたいかどうかをお答えください

>経験教員を活かした国際教育プログラムの実施機会の脆弱性
>派遣中教員との連携による国際教育プログラム実施への高い関心

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

調査分析報告
[調査②-2]

(経験教員対象・アンケート調査)

■調査目的: JOCV海外教育経験教員の動向把握

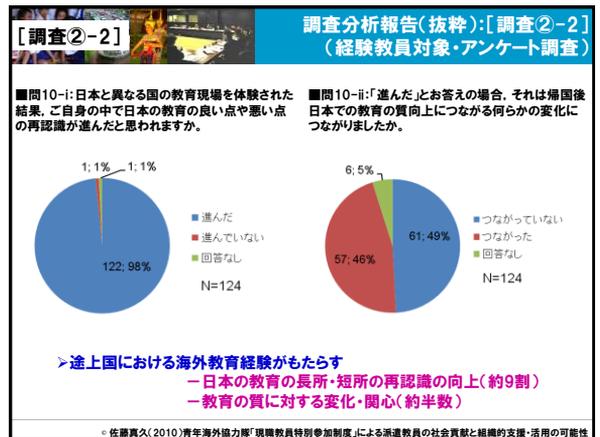
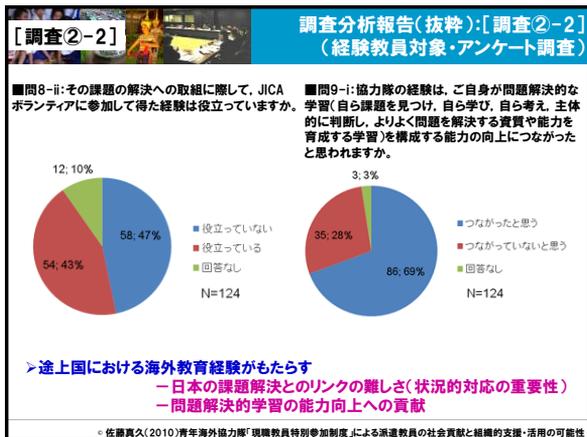
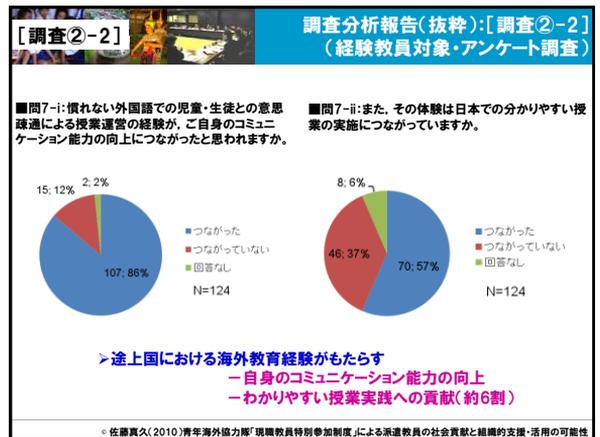
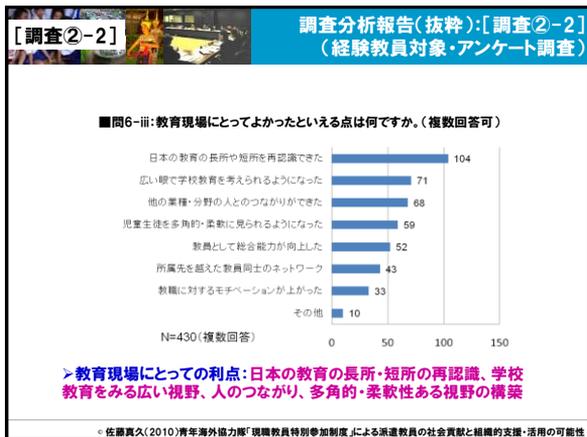
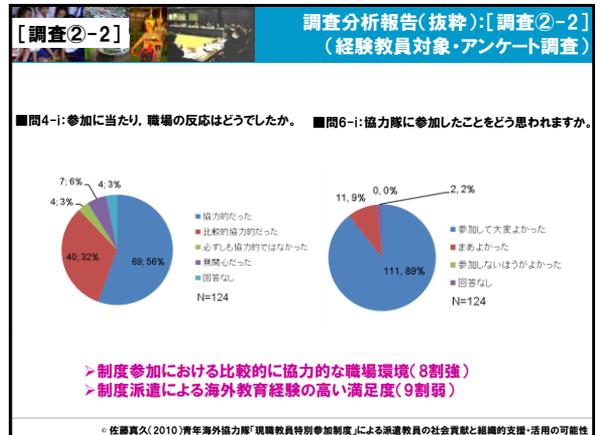
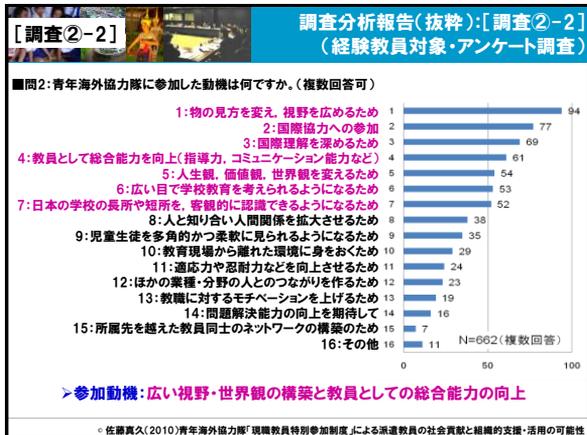
■調査対象: JOCV海外教育経験教員

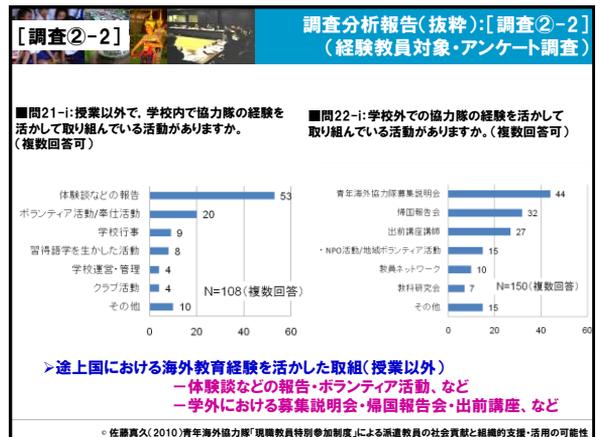
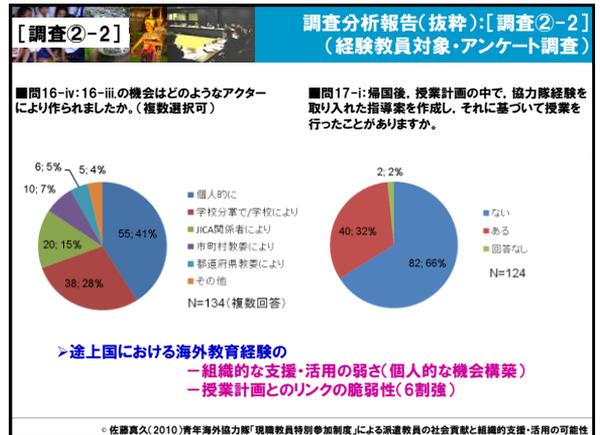
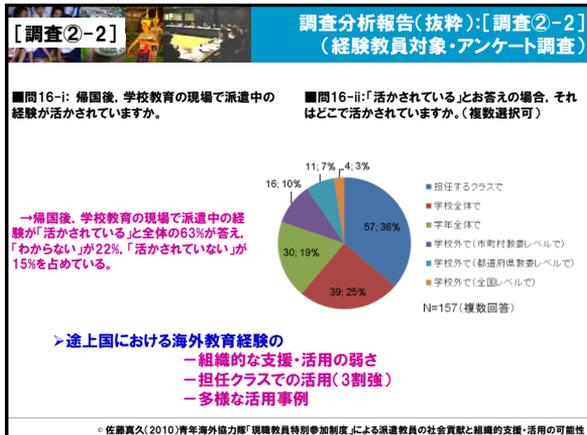
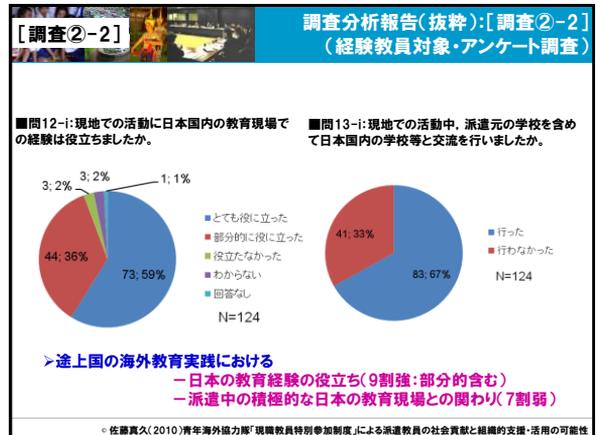
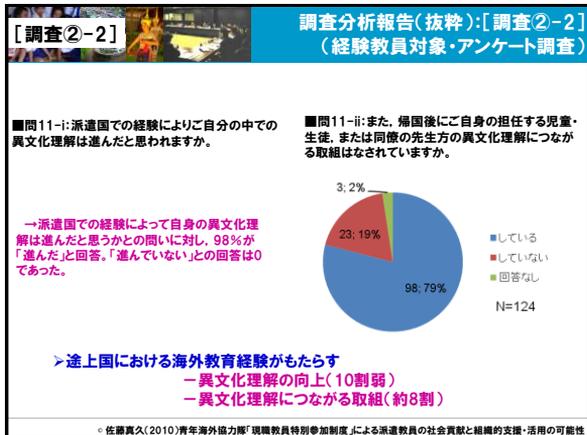
■調査方法: アンケート調査

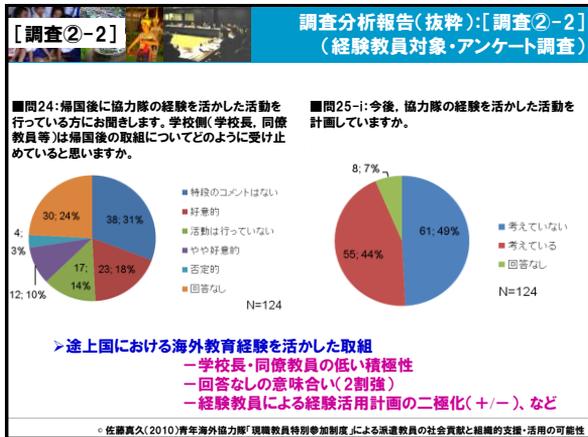
■調査実施時期: 2009年10月-11月末

■調査実施結果: 配布数:572 回答数:124名
回収率:21.6%

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性







【調査③】 調査分析報告 [調査③] (経験教員対象・インタビュー調査)

■調査目的: 「現職教員特別参加制度」による派遣教員の還元・貢献活動事例とその背景、阻害・貢献要因、展望について把握。

■調査対象: 経験教員20名

■調査方法: インタビュー調査

■調査実施時期: 2009年11月～2010年1月

■調査実施結果: 経験教員20名

■備考: ※調査対象の選考にあたっては、多様性に配慮。

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

【調査③】 事例調査報告:[調査③] K.M.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣中】

■経験教員:K.M.教諭(神奈川県横浜須賀野市)

■派遣国:ブータン(H12-1派遣)

■職種:体育教師

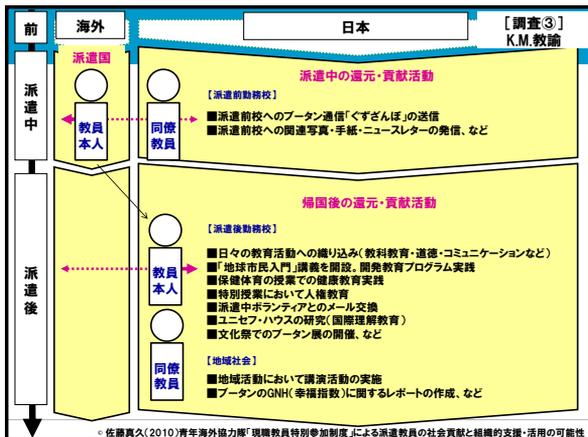
■還元活動キーワード:派遣中の壁新聞・手紙・写真による情報発信・コミュニケーション。派遣後の国際理解教育/開発教育プログラム、文化祭での展示、教科教育(保健)、人権教育

【派遣後】

■教育実践キーワード:コミュニケーションの質的变化(相手の表情を見ながらのコミュニケーション)。「常識」概念の変化、「豊かさ」概念の変化

■備考:制度以前に参加

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



【調査③】 事例調査報告:[調査③] K.I.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣中】

■経験教員:K.I.教諭(静岡県沼津市)

■派遣国:ホンジュラス(H14-1派遣)

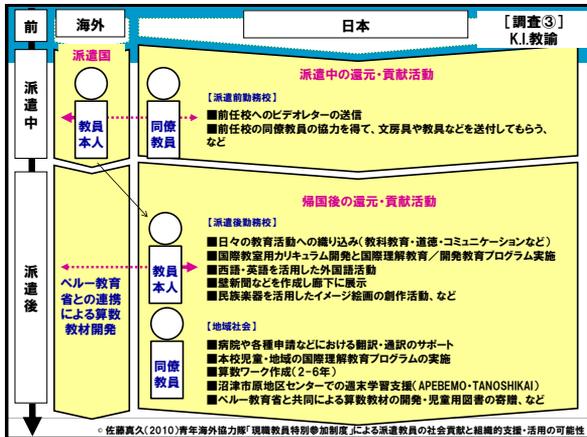
■職種:小学校教諭

■還元活動キーワード:在留外国人児童生徒・保護者対応、国際理解教育/開発教育、西語・英語を活用した週末学習支援、ヘルメ大使館・教育省との連携による算数教材開発、FMめます初教育番組の企画(西和2ヶ国語)

【派遣後】

■教育実践キーワード:コミュニケーションの質的变化。「常識」概念の変化、安全・危機管理能力の向上。マイリテアの経験を生かした生徒指導、地域における多文化協働、防災教育、特別支援

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] N.N.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

■経験教員:N.N.教諭(茨城県守口市)
 ■派遣国:ドミニカ(H16-1派遣)
 ■職種:小学校教諭

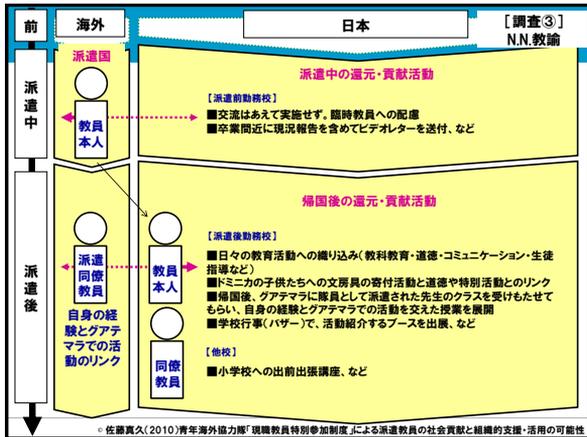
■還元活動キーワード:生徒指導、キャリア教育、学校行事(バザー)、寄付活動、後援教員(隊員派遣)連携による国際理解教育/開発教育

■教育実践キーワード:経験に基づく言葉の説得力、放任主義(教育的意味を有した)、広い視野と動じない態度、児童生徒の個別指導

写真:小学校への出前出張授業(国際理解教育/開発教育)

写真:入らびつでの寄付に向けたPTAを巻き込んだ関係活動

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] H.K.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

■経験教員:H.K.教諭(埼玉県さいたま市)
 ■派遣国:ウガンダ(H19-1派遣)
 ■職種:小学校教諭

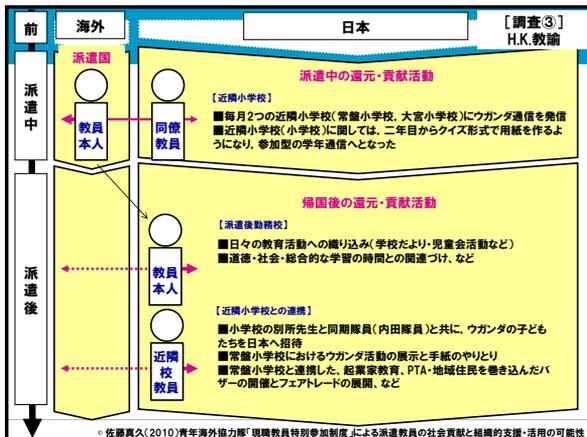
■還元活動キーワード:派遣中の参加型学年通信、近隣小学校との連携による国際理解教育/開発教育、起業家教育、PTA・地域住民を巻き込んだバザーの開催とフェアトレード

■教育実践キーワード:「異文化理解」概念の変化(価値の押しつけから認識・受容へ)、日本の教育力の高さ、派遣前の還元・貢献の可能性、日本での近隣小学校との連携による教育実践

写真:学級通信を通しての国際理解に対する意欲の喚起

写真:別所教諭と同僚教諭(常盤小学校)との連携によるウガンダとの交流プロジェクトの展開

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] H.S.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

■経験教員:H.S.教諭(神奈川県平塚市)
 ■派遣国:ベトナム(H15-1派遣)
 ■職種:小学校教諭

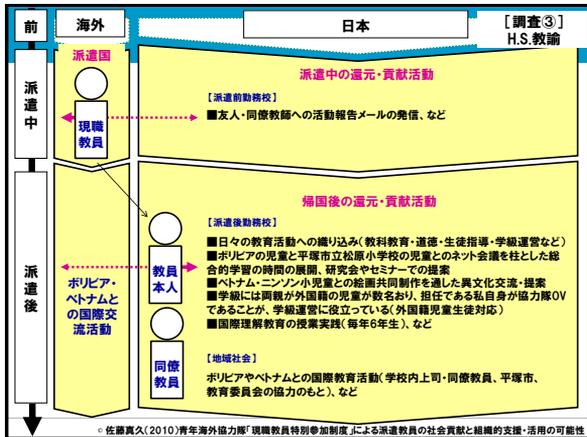
■還元活動キーワード:国際理解教育/開発教育、総合的学習の時間、学級運営、経験を応用したポルビアとの連携プログラム、教育委員会や同僚教員との連携した国際教育プログラム

■教育実践キーワード:教育観の変化(伝える・教えるから驚かす・引き出すへ)、価値観の尊重、直接指導から間接指導へ、日本の積み重ね学習の強み、「言葉の力」の再認識、「表現できる子」を育てる、子ども同士の対話能力、マイノリティ経験を生かした学級運営

写真:ベトナム・コンナム小学校と常盤小学校の生徒による共同絵画制作「ほくら地球の未来っ子」

写真:ポルビアの小学校とのインターネット交流と習字の紹介

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



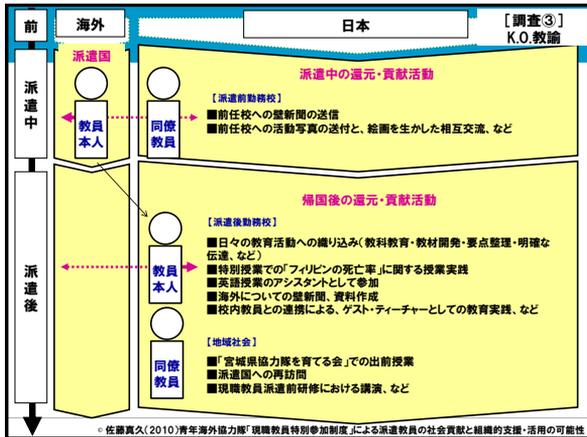
[調査③] 事例調査報告:[調査③] K.O.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

写真: 国際理解のための学内展示ブース
写真: 経緯を生かした紙芝居づくりと読書活動

- 経験教員: K.O.教諭(宮城県仙台市)
- 派遣国: フィリピン(19-1派遣)
- 職種: 小学校教諭
- 還元活動キーワード: 総合的学習の時間、外国語教育、国際理解教育/開発教育、紙芝居を活用した国際理解教育
- 教育実践キーワード: 日本の教育教材の質の高さ、教材の質的改善、授業改善(要点整理と明確な伝達、丁寧な授業運営)、同僚との連携による教育実践、コミュニケーション能力の向上、メンタリティの向上

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



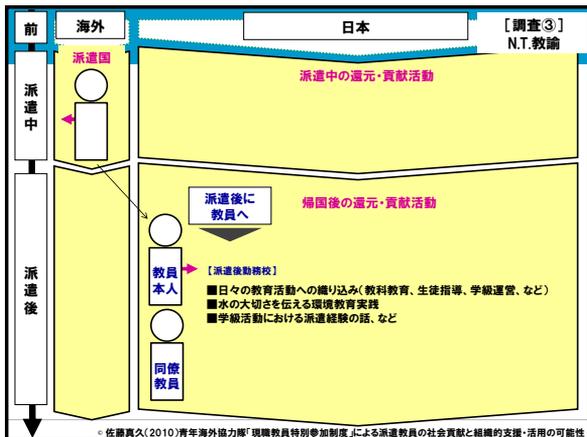
[調査③] 事例調査報告:[調査③] N.T.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

写真: 派遣先の料理「サザン」のレシピ作り
写真: 派遣先の写真を活用した「水の大切さ」を伝える環境教育教材の開発と教育実践

- 経験教員: N.T.教諭(宮城県仙台市)
- 派遣国: シンバエ(H9-1派遣)
- 職種: 小学校教諭
- 還元活動キーワード: 水の大切さを伝える環境教育実践、募金活動、生徒指導、学級運営
- 教育実践キーワード: 派遣隊員どうしの学び合い、万国共通の子どもの笑顔、日本の常識・世界の非常識、コミュニケーション手段としての英語、安全管理・危機管理能力の向上、チャレンジ精神、現実と理想を教える役割(教育者果たす役割の認識変化)、経験を通じた外国籍児童生徒への配慮、子ども達との信頼の構築
- 備考: 派遣後に教員へ

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



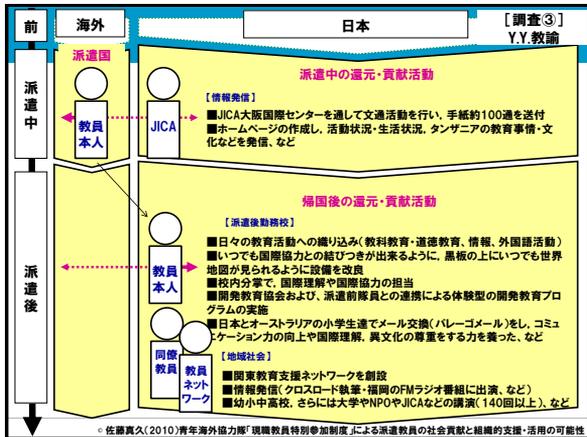
[調査③] 事例調査報告:[調査③] Y.Y.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

写真: 開発教育協会(DEAR)と派遣前教員(タンザニア派遣)との連携による開発教育プログラム(資格ゲーム)の実施
写真: 帰国教員ネットワーク(開発教育支援ネットワーク)の形成と帰国後の実践事例の共有と議論

- 経験教員: Y.Y.教諭(東京都町田市)
- 派遣国: タンザニア(H12-2派遣)
- 職種: 理科教師
- 還元活動キーワード: 派遣中隊員との学び合い(タンザニア教育研究会)、活動情報の発信、米平和部隊との連携、国際理解教育/開発教育、総合的学習の時間、道徳教育との関連性、ICT活用の国際教育、関東教育支援ネットワーク
- 教育実践キーワード: 行動力の向上、地球人としての世界観の醸成、ICT活用がもたらす国際理解、経験隊員のネットワーク構築と教育実践研究
- 備考: 制度以前の参加

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



事例調査報告:[調査③] N.T.教諭
(経験教員対象・インタビュー調査)

[調査③]

- 経験教員:N.T.教諭(神奈川県逗子市)
- 派遣国:シンバブエ(H13-1派遣)
- 職種:養護教諭

還元活動キーワード:食育、給食指導、保護者参加型の授業実践、総合的学習の時間、学級間の交換授業

教育実践キーワード:児童生徒の個々に向き合う指導の重要性、一日一日の時間の大切さ、日々の教育活動に対する振り返りの重要性、授業の内容の融通性の向上

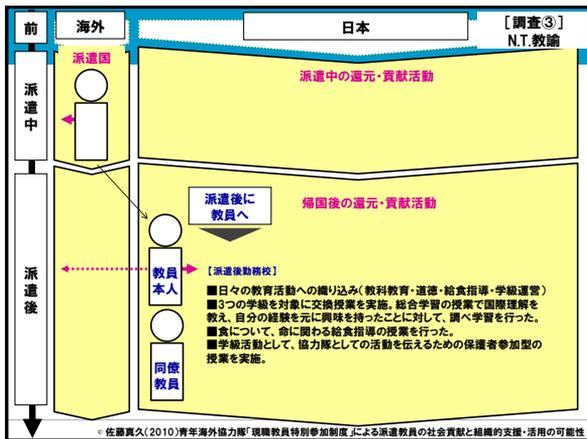
備考:帰国後に教員へ

[派遣後]

写真:給食指導による食育実践【帰国後の還元活動】

写真:総合的学習の時間における「食」に関する作文【帰国後の還元活動】

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



事例調査報告:[調査③] K.H.教諭
(経験教員対象・インタビュー調査)

[調査③]

- 経験教員:K.H.教諭(大阪府大東市)
- 派遣国:ルーマニア(H15-1派遣)
- 職種:ソーシャルワーカー

還元活動キーワード:国際理解教育/開発教育、保護者とのボランティア活動(大東市たばこゼロプロジェクト)、社会教育活動(ルーマニアからのほほえみ)、日常会話、総合的学習の時間

教育実践キーワード:仲間意識の醸成、日本の教育制度の素晴らしさ、経験に基づく言葉の重さ、生きる力、「あたりまえ」の概念、あいざつと日常生活の重要性、学び合い、総合力を持った教員の育成、地域連携のプロデュース

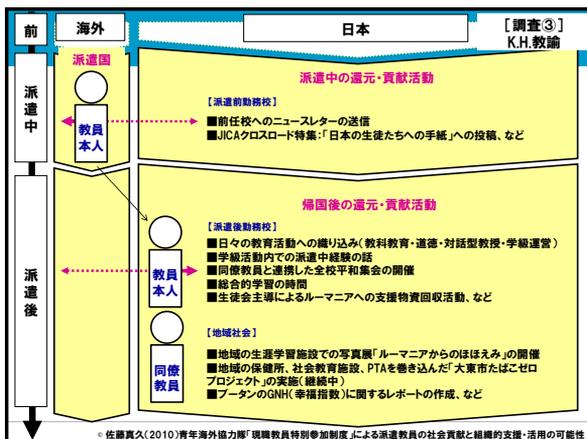
[派遣中]

写真:クロスロード特展「日本の生徒たちへの手紙」において、ストリート・チルドレンとの出会いに関する記事の発信

[派遣後]

写真:漢字小学校の全校平和集会:「ルーマニアのことにもなにかかわって」での経験報告と国際理解教育・開発教育プログラムの実施

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



事例調査報告:[調査③] K.M.教諭
(経験教員対象・インタビュー調査)

[調査③]

- 経験教員:K.M.教諭(兵庫県大東市)
- 派遣国:ホンジュラス(S63-3派遣)
- 職種:技術科教師

還元活動キーワード:教科教育(技術)、ふるさと学習、自然体験を通じた感動体験、ICTを活用した国際理解・開発教育、「幸せ」に関する道徳教育、教育指導力向上研究会、教育支援ネットワーク、学校運営、JOCVグリーティングカードから始めるJOCV派遣教員と地元学校との交流プログラム

教育実践キーワード:ふるさと教育、教育の国際化、「豊かさ」の概念、生きる力、日本の子どもが世界の子どもと繋がる意味、感動体験、自分で気づく力を養う

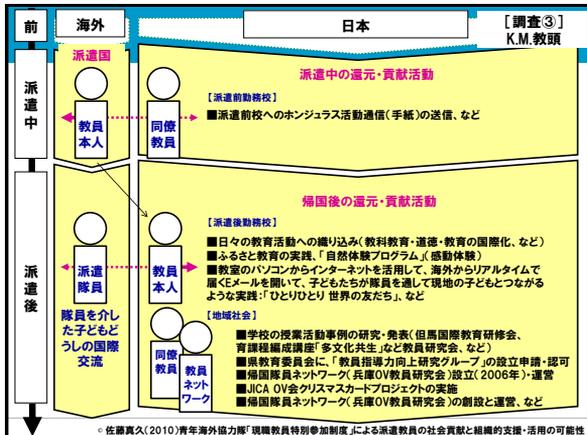
備考:制度以前参加

[派遣後]

写真:兵庫小学校6年総合的な学習の時間「ひとりとひとりの世界の友だち」での、ホンジュラスと地元のテレビ会議交流

写真:帰国教員ネットワーク(兵庫の教員研究会)の創設と帰国後の実践事例の共有と連携

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] J.K.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:J.K.教諭(大阪府豊中市)
- 派遣国:ベトナム
- 職種:SE

■還元活動キーワード:派遣中における日本の高校との連携による国際理解教育/開発教育プログラム(Meet the GLOBEプロジェクト)、総合学習の時間、人権教育(バリアフリー、私たちの幸せ)、NGO連携の教材支援活動、持続発展教育

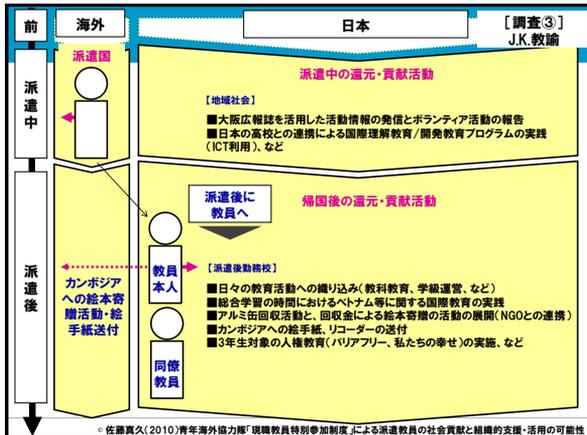
■教育実践キーワード:人のつながりの大切さ、人権教育・国際教育を通じた価値教育、既存の教育実践との関連づけ(つながり・かかわり・ふかまり・ひろがり)、「幸せ」の概念

■備考:帰国後に教員へ

写真:豊中市立上野小学校の国際教育方針との連携「国際社会に生きる学力を求めて」-視野と主体性行力育成

写真:豊中市立上野小学校の国際教育方針との連携「国際社会に生きる学力を求めて」-視野と主体性行力育成

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] M.S.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:M.S.教諭(新潟県)
- 派遣国:ドミニカ(H18-1派遣)
- 職種:小学校教諭

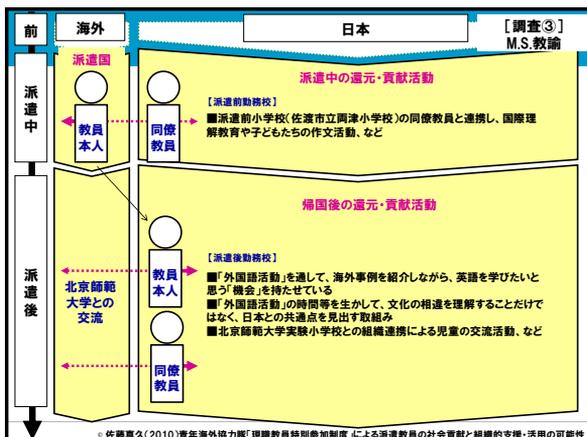
■還元活動キーワード:外国語教育、国際理解教育、北京師範大学実験小学校との連携プログラム

■教育実践キーワード:コミュニケーション手段としての英語、日本語教育の重要性、日本文化の尊重、世界に対する好奇心の醸成

写真:小学校5-6年対象の外国語活動の実践

写真:北京師範大学実験小学校との組織連携による児童生徒との交流活動

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] N.I.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:N.I.教諭(京都府)
- 派遣国:シンパエ(H6-2派遣)
- 職種:体育教師

■還元活動キーワード:生徒指導、道徳、保健での衛生・健康指導、部活動指導、京都府連携による普及啓発

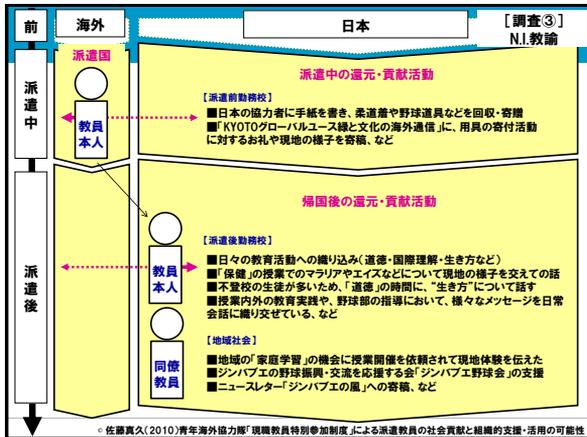
■教育実践キーワード:「豊かさ」、「幸せ」の価値観、家庭や社会が育てる子どもたち、心のゆとり、日常生活、経験・挑戦の大切さ

■備考:制度以前参加、「京都市表彰」受賞、京都市国際貢献隊で教諭として採用に

写真:生徒たちが各自書いた個人目標や自己アピールなどを定期的なクラス発表

「シンパエ野球会」のニュースレター「シンパエの風」で活動支援を呼びかけ

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



調査③ **事例調査報告:[調査③]** **K.F.教諭**
(経験教員対象・インタビュー調査)

派遣中 **派遣中の還元・貢献活動**

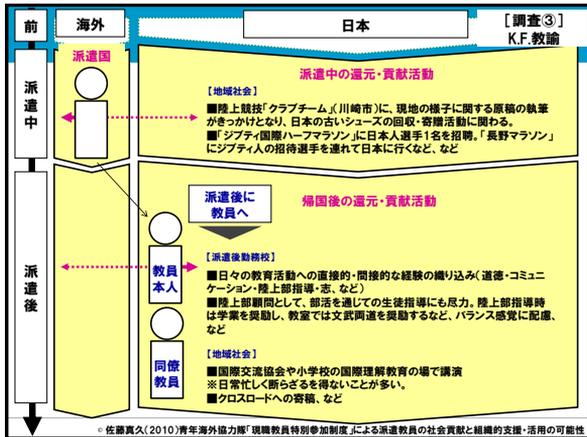
- 経験教員:K.F.教諭(京都府)
- 派遣国:シブチ(H12-1派遣)
- 職種:陸上競技

派遣後 **帰国後の還元・貢献活動**

- 還元活動キーワード:バランス感覚を重視した生徒指導、日々の教育実践への直接的・間接的な経験の織り込み、陸上部指導
- 教育実践キーワード:コミュニケーション力の幅の拡大、志の大切さ、言葉の大切さ、新しい視点を生み出す手段としての外国語、経験の活かしかの恵加減、バランス感覚、体当たりの指導、問題解決に向けた臨機応変な対応、異文化対応
- 備考:制度以前参加、「京都市表彰」受賞、京都市国際貢献枠で教諭として採用に

写真:嵯峨高校陸上部での指導風景
写真:嵯峨高校企画部開催のコミュニケーション・カンパ

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



調査③ **事例調査報告:[調査③]** **H.U.教諭**
(経験教員対象・インタビュー調査)

派遣中 **派遣中の還元・貢献活動**

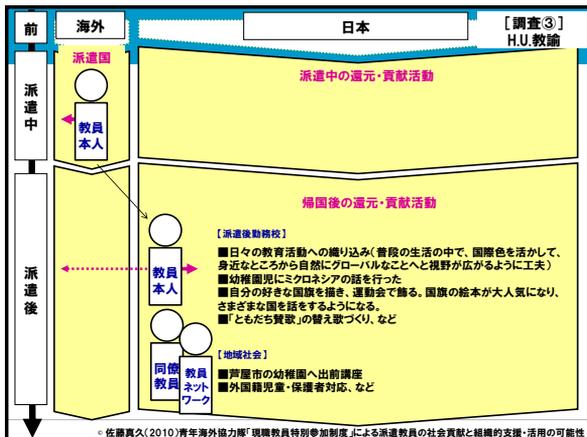
- 経験教員:H.U.教諭(兵庫県芦屋市)
- 派遣国:ミクロネシア(H18-1派遣)
- 職種:幼児教育

派遣後 **帰国後の還元・貢献活動**

- 還元活動キーワード:国旗かたや国旗の絵本を生かした国際理解教育、歌を通し様々な世界の言葉との出会い
- 教育実践キーワード:総合プロデュース力、コーディネート力、家族の大切さ、おおらかさ、マイノリティ経験を生かした外国籍児童・保護者対応、身近ところからグローバルな世界観を

写真:ミクロネシアについての授業風景
写真:クラスで大人気の国旗かたや国旗の絵本

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



調査③ **事例調査報告:[調査③]** **H.O.教諭**
(経験教員対象・インタビュー調査)

派遣中 **派遣中の還元・貢献活動**

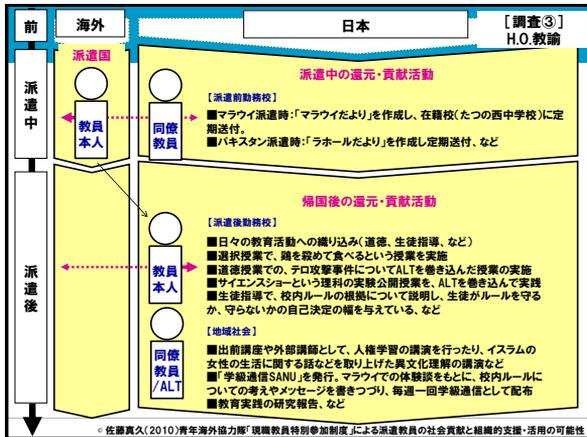
- 経験教員:H.O.教諭(兵庫県たつの市)
- 派遣国:マラウイ(H6-1派遣)
- 派遣国:パキスタン(H18-2派遣)
- 職種:理科教師・SV

派遣後 **帰国後の還元・貢献活動**

- 還元活動キーワード:「マラウイだより」、「ラホールだより」の送付、道徳教育、ALTとの連携授業、生徒指導、出前授業、学級通信、人権学習、国際理解教育、理科の実験公開授業
- 教育実践キーワード:命の大切さ、自然との接点、人権学習、生物教材の収集と研究、ルールの機軸と自己選択、実験教材・教員の開発

写真:ALTと行うサイエンスショー
写真:理科実験「鳥の解体」レポートの作成

◎佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] Y.K.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:Y.K.教諭(東京都武蔵野市)
- 派遣国:ハンガリー(H13-2派遣)
- 職種:日本語教師

■還元活動キーワード:日本語関連研究会での報告・交流(派遣中)、日本語指導、比較エッセイ

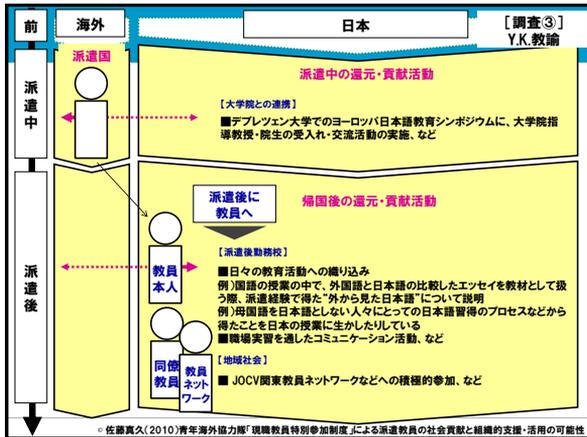
■教育実践キーワード:日本語習得プロセスの体験に基づく日本での指導の糧の向上、日本語の面白さ、多様な言語習得に基づく独自の教授法の改善、「外からみた日本語」

■備考:派遣後に国語教諭になる。

写真:地域住民を巻き込んだクリスマス会の開催

写真:職場体験の実践活動を通じたコミュニケーション活動

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] A.N.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:A.N.教諭(東京都江戸川区)
- 派遣国:ベトナム(H17-1派遣)
- 職種:青少年活動

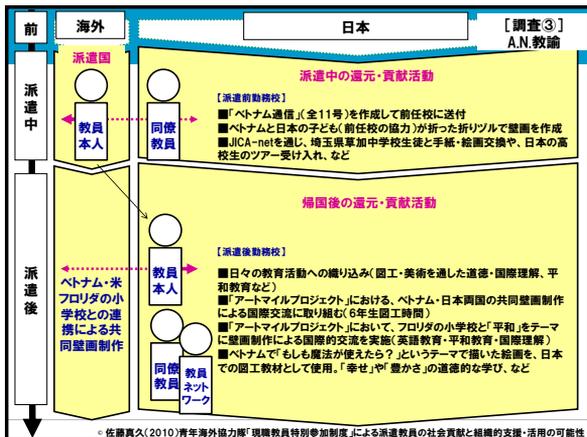
■還元活動キーワード:「ベトナム通信」、ホアインの祭りでの折り紙の共同壁画制作、国際理解教育/開発教育、平和教育、共同壁画制作と国際交流、英語教育

■教育実践キーワード:日本の常識・世界の非常識、教師が身につける生きる力、図工・美術教育を通じた道徳活動(もしも魔法がつかえたら)

写真:アートマイルプロジェクト 日本とベトナム-健康で国際交流(テーマは文化)

写真:日本の図工の授業教材「もしも魔法が使えたら?」「世界を自由に、年まで競争がないよ」といふベトナムの小学生の10歳代の子による絵画

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査③] 事例調査報告:[調査③] A.O.教諭 (経験教員対象・インタビュー調査)

【派遣後】

- 経験教員:A.O.教諭(神奈川県相模原市)
- 派遣国:パラグアイ(H15-1派遣)
- 職種:音楽教師

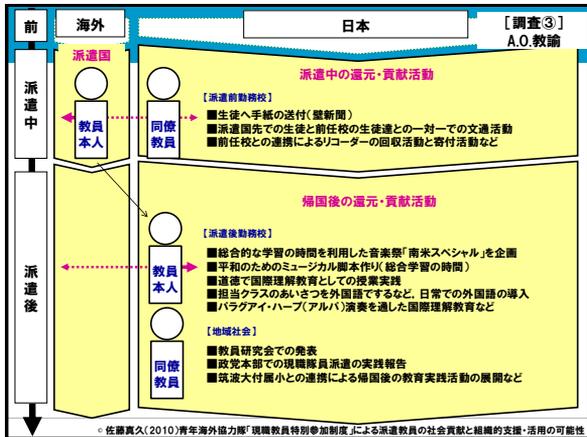
■還元活動キーワード:児童への手紙(壁新聞)、児童どうしの文通活動、総合的学習の時間を活用した音楽祭「南米スペシャル」、道徳の授業、平和を願うミュージカルの脚本づくり、外国語教育、アルバの演奏と国際理解教育

■教育実践キーワード:多様な価値観の尊重、日本の教育指導方法のレベルの高さ、経験の重さと自信、世界と日本のつながり・かわり、自己表現の大切さ

写真:国際理解教育の授業風景(ニャンツァティリスを題材したA.O.教諭)

写真:音楽祭「南米スペシャル」の発表風景

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



[調査④]

調査分析報告 [調査④]

(支援構築組織対象・事例調査)

■調査目的: 経験教員の活動推進にむけた支援体制の構築事例の把握。

■調査対象: 支援体制を有する組織(7組織)

■調査方法: 事例調査

■調査実施時期: 2010年2月

■調査実施結果: 支援体制を有する組織(7組織)
(国際協力機構、筑波教育大学、筑波大学、専門教育大学、筑波大学附属小学校、兵庫OV教員研究会、関東教育支援ネットワーク)

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査④] 調査分析報告:[調査④]

■支援体制の構築(事例)

- 学術機関としての知見蓄積・共有
 - 筑波教育大学
 - 筑波大学
 - 専門教育大学、など
- 授業実践の支援にむけた取組
 - 筑波大学附属小学校、など
- 経験教員どうしによるネットワーク構築
 - 兵庫OV教員研究会
 - 関東教育支援ネットワーク、など

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

[調査⑤]

「現職教員特別参加制度」の運用と派遣教員の組織的支援・活用に向けて

調査分析(調査①-④)と研究調整連絡会合(調査⑤)に基づいた論点整理と改善案・提案 (関係機関対象・フォーカスグループディスカッション)

会合目的: (1)各調査の分析結果の共有と本研究報告に基づく議論、(2)報告書ドラフトの修正案・改善案の提示、(3)本制度を活用している教育委員会の取組事例の共有と今後の展望に関する議論、(4)制度の効果的推進にむけた経験教員からの意見・提案の収集、(5)現職教員特別参加制度経験者の支援・活用に向けた意見交換、(6)本制度の組織的推進に向けた意見交換

会合 都道府県・政令指定都市 教育委員会、経験教員、研究協力者、国際協力機構(JICA)、

参加者: 文部科学省大臣官房国際課、文部科学省初等中等教育局国際教育課

会合形態: フォーカスグループ・ディスカッション

開催場所: 文部科学省

開催時期: 平成22年3月1日(月曜日)

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性



論点整理 教育委員会の取組動向 [調査①] 教育委員会による認識と取組

■教育委員会

[教育委員会]

- ※JOCV経験教員への評価・期待の高さと活用機会の間に見られるギャップ
- ※量的な機会の欠如/活動の多様性の低さ、一般教員との協働機会の創出
 - 「量的な機会の少なさ」
 - 「機会の多様性の少なさ」
 - 一般教員との協働という形の中で機会の幅も見受けられる
- ※行政施策との関連づけの弱さ
- ※還元・貢献活動領域の高い潜在性・可能性
- ※学校教育目標との関連性・小中連携などの学校長への高い期待と具現化への高い壁
- ⑥共有資源としてのJOCV海外教育経験の制度化・一般化の重要性

© 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 所属学校長による取組動向 [調査②] 所属学校長による認識と取組

■所属学校長

【所属学校長】 ※本調査特性(回収ルート・回答率)を配慮して解釈要
 ※「現職教員特別参加制度」に対する高い認知度
 ※「総合的な学習の時間」での還元・貢献
 ※「外国語活動必修化の対応にむけた人的施策」等との関連性。
 ※還元・貢献活動の組織的支援の必要性
 ※教育委員会・JICAへの期待
 ※派遣活動中における日本の教育への還元・貢献活動の高いニーズと現実的な障壁

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 経験教員による取組動向・事例 [調査②][調査③]経験教員による認識と取組

■JOCV海外教育経験教員の社会還元・貢献と取組

【帰国後の学校内での取組】

【学校(授業)】
 →日々の教育課程への織り込み
 →総合学習
 →国際理解教育・環境教育・平和教育・人権教育・開発教育
 →外国語活動・道徳、など
 ⇒教科指導への重点化
 ⇒教材・教員・カリキュラム開発

【学校(授業外)】
 →学級運営・生徒指導
 →校務分掌・キャリア教育
 →同僚とのコミュニケーション
 →国際連携・交流
 →ニーズ調査、企画・運営
 →危機管理
 →学社連携プロセス、など
 ⇒コミュニケーションと運営・調整

【帰国後の学校外での取組】

→情報発信
 →経験教員ネットワークを活かした知見蓄積
 →外国籍児童生徒・保護者対応
 →出前講座・外部講師
 →PTA、地域住民を活かした国際教育
 ⇒地域連携・ニーズ対応
 ⇒ネットワーク構築
 など

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 経験教員の取組動向・事例 [調査②][調査③]派遣前中後における多様な還元・貢献事例

【派遣前】
 →児童生徒との派遣前心境の共有によるグローバルな世界観の醸成
 →派遣前における派遣国に関連する国際教育プログラムの展開、など

【派遣中】
 →所属学校・周辺学校・地域社会への活動報告を通じた情報発信
 →所属学校・周辺学校の児童生徒との手紙のやり取りや継続的コミュニケーション(ICT利用)
 →所属学校・周辺学校との連携による国際教育プログラムの実施
 →地域・PTAを巻き込んだ所属学校・周辺学校との連携による地域実践プログラムの展開(文化祭やバザー、支援物資の回収と送付)、など

【派遣後】
 →授業における活動(教科教育への織り込み、総合的学習の時間における同僚教員・外部組織との連携によるプログラム実践)、など
 →授業外における活動(外国人児童生徒対応、文化祭や生徒活動、学級運営、生徒指導、キャリア教育、児童会プログラム)、など
 →学校外における活動(PTAや保健所、社会教育施設、他学校との連携による教育プログラムの展開)、など
 →派遣国・派遣国以外の国々との国際教育活動

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 経験教員の取組動向・事例 [調査②][調査③]経験教員自身の変化

■経験教員自身の変化

海外教育経験がもたらす**人間的な成長と経験の豊かさ**
 応応力・忍耐力・問題解決能力の向上
 →多角的視点・多様な価値観・柔軟性の向上
 →自己表現
 →マイノリティの立場理解、など

→コミュニケーション能力の向上によるわかりやすい授業実践
 →問題対応能力の向上による学校運営などの諸問題への適切な対応
 →問題解決的学習の構成能力の向上と授業実践
 →日本の教育の再認識
 →異文化理解の向上による「内なる国際化」

■「国際教育協力」の認識変化
 →関係論的世界観
 →交流型コミュニケーション
 →教員の資質・教育の質

■教育内容の質的变化
 →つながり・ひろがり・かかわり・かまわり
 →世界の文脈、地域の文脈
 →価値観・倫理観の醸成

■教育方法の質的变化
 →コミュニケーションの質・方法
 →多様な価値観の尊重

■組織能力の向上
 →企画・運営、意思決定
 →同僚コミュニケーション
 →危機管理、調整、プロセス

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 経験教員の取組動向・事例 [調査②][調査③]活動における阻害・貢献要因

【阻害要因】
 →時間的・精神的余裕の欠如
 →海外教育経験を活かす場・機会の少なさ
 →制度に対する管理職・学校同僚の理解の低さ
 →海外教育経験が生かされない人的な配置・校務分掌、など

【貢献要因】
 →途上国における海外教育経験が多様な場・機会において役立つ可能性・潜在的な認識(教育課程指導力、教材・教員・カリキュラム開発、危機管理、自己表現、ニーズ・課題発見能力、多様な価値観の尊重、マイノリティの立場理解、生徒指導、キャリア教育、同僚とのコミュニケーション、企画運営、学社連携プロセス、調整力、など)
 →変化しつつある地域社会・教育現場(異なる価値・生活・国語・キャリア観)
 →学校・教育委員会による経験教員に対する社会還元・貢献の高い期待

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理 支援体制の構築事例 [調査④]

■支援体制の構築(事例)

■政府機関としての制度運営・活動支援・活用
 →国際協力機構(JICA)、など

■学術機関としての知見蓄積・共有
 →宮城教育大学
 →筑波大学
 →鳴門教育大学、など

■授業実践の支援にむけた取組
 →筑波大学附属小学校、など

■経験教員どうしによるネットワーク構築
 →兵庫OV教育研究会
 →関東教育支援ネットワーク、など

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理

制度活用と経験教員の組織的支援・活用の意義

国際教育協力の経験から学ぶ

- 地球人として生きる、日本の常識/世界の非常識、多様な文化・価値観の尊重、グローバル化の下でのつながり・かわり・ひろがりの認識
- 日本の良さを知る、日本の良さ、地域の強みを知る
- 力を合わせる国際協力、技術移転の国際協力の発想から脱却
- 人と人との直接的つながり、かかわり、つながり、つながりからの脱却
- コミュニケーション: 多様な価値観の尊重、言葉の置き、マイノリティの視点
- 豊かさの概念: 人間開発アプローチへの移行、心の豊かさ
- 変容を促す教育実践: 新規派遣教員・JOCV隊員・同僚教員・地域との連携を生かした日本の学校内外での教育活動

教員個人の能力向上/組織能力の向上—その潜在性・可能性

- 生きる力: 確かな学力、豊かな人間性、健康と体力、との深い接点
- 持続発展教育(ESD): 質の高い基礎教育の充実、MDGsとの整合性、道徳教育、つながり・かわり・深まり・広がり、参加型・対話型学習と教授、互いが学び合い、変容を促す教育の実践、文化の尊重と地域学習、平和教育・環境教育・人権教育・国際理解教育、開発教育、など
- 組織能力の向上: 学校運営、校務分掌活動、安全管理、危機管理、地域連携のプロデュース、同僚教員との連携、部活動、生徒指導、総合学習の時間、教科関連、学校行事、キャリア指導、外国籍児童生徒対応、給食指導、など
- 学習のサイクル: 日本・地域全体での知見蓄積・共有、

※1: ○S教員(ドミニカ:小学校教育)、※2: ○K教員(ウガンダ:小学校教育)

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

論点整理

組織的支援・活用にむけた機能と役割

多様な主体による支援体制

- 学校 (校長によるリーダーシップ、各教科との関連づけ、校務分掌・企画運営・危機管理・人事的措置、校内研修、教材研究の時間確保、)
- 同僚教員 (共同による教材研究と教材化、学級・学年運営、コミュニケーション、研究会、など)
- 教員ネットワーク (教員ネットワーク、研究会、など)
- NGO・地域住民

教育委員会

- 派遣枠拡充・確保、教員研修の一環としての派遣、経費負担検討、帰国報告義務、教員研修、国際理解教育研究会・教科研究会、開発教育、研修機会、人事的措置、管理職登用ルート、優先的教員採用、派遣前中後の支援・活用の調整と予算措置、校区での連携方策の検討、ネットワーク組織の認知、自治体施策とのリンク、など)
- 組織間連携による計画立案・実施・評価、支援・活用方策検討
- 連携による研修・報告会開催、ガバナンス計画、出前講座の制度化、JICA国内機関に教員支援担当者配置、経験教員データベース、など

文部科学省

- 教育政策・国際協力数値との関連づけ
- 組織間連携によるリーダーシップと計画立案・実施・評価
- 制度運用・改善
- 支援・活用の調整と予算措置
- 優良事例の発信、など

国際協力機構(JICA)

- 多様な地域社会ニーズ把握
- 派遣枠拡大・応募数拡大
- 組織連携による支援・活用方策の検討、普及・広報・制度理解
- 効果的な案件形成

※ 連携による支援・活用方策検討
※ 学校教育目標に対する明確な理解と整合性の確保、学校内における制度連携
※ 派遣枠拡大・応募数拡大
※ 組織連携による支援・活用方策の検討、普及・広報・制度理解
※ 効果的な案件形成

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

改善案提案

現職教員特別参加制度の効果的活用に向けて ~制度面における改善案・提案

【制度に関する論点】

- 制度の充実(内容)に関する議論
- 制度利用組織数の拡大(活用する教育委員会・自治体数)・普及にかかわる方策
- 教育委員会・自治体の派遣枠の拡大・普及にかかわる方策
- 応募者数・派遣人数の拡大(応募教員数・派遣教員数)・普及にかかわる方策
- 文科省・教育委員会・JICA等における制度の組織的支援・活用、派遣前中後支援にむけた方針・計画・実施・評価の必要性、など

【制度内容に関する改善案・提案】

- 制度内容・条件設定 (状況に応じた融通性ある派遣体制 [教員参加条件・教員経験年数など] [募集時期—春・秋募集など] [募集期間の延長] [派遣回数増加] [福利厚生充実] [給与・財政支援体制の充実])
- 異なる目的・対象に対応した体制づくり [短期派遣制度] [シニアボランティア制度]
- 派遣時期に対応した施策 [事前研修制度] [派遣中支援体制の充実] [派遣後の報告・次期隊員指導体制]
- 帰国教員の組織的支援・活用方策 [帰国教員の人事的配慮] [教員研修や研究会での知見の共有] [他校への出前講座の制度化]、など

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

改善案提案

現職教員特別参加制度の効果的活用に向けて ~時系列に基づく改善案・提案

派遣前

- 教育理解にむけた広報 → 教育委員会・JICA: 広報の連携活動 → 教育委員会・管理職への制度理解 → 学校長・同僚: 制度理解、など
- 事前研修制度 → 帰国報告会とのリンク
- 教員選定に連した案件形成: JICA: 教員に選した派遣先決定、など

派遣中

- 支援体制の整備 → 派遣中活動の報告・連絡 → 帰国教員への指導 → 出前講座の制度化 → 帰国報告会・体験報告会、など
- 組織連携による支援・活用方策 → 学校長・同僚: 制度理解、など
- 学校における国際教育 → 派遣中における教育委員会 → 校長・同僚教員とのコンタクト → 制度導入、など

派遣後

- 適切な人事配置・採用 → 教員採用枠の設置 → キリヤ促進措置 → 校務分掌 → 学校配置、など
- 経験教員の組織的支援・活用 → 教員研修への指導 → 出前講座の制度化 → 帰国報告会・体験報告会、など
- 事後研修・フォローアップ制度 → 知見蓄積・共有 → 研究会・ネットワーク支援 → 大学奨励制度、など
- 経験教員ネットワーク構築 → ネットワーク運営・知見蓄積・共有 → 経験教員ネットワークの認知と組織支援 → 帰国教員人材データベース、など

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

さいごに・・・ 途上国における海外教育の経験を活かした「還元・貢献」の意味するところ

※本調査研究から・・・

現職教員派遣制度による派遣教員の資質・能力向上とその現場教育等への社会還元・貢献の可能性の高さ

※一つの懸念・・・

途上国における海外教育経験がもたらす自信と資質・能力の向上、その一方で、孤立化への懸念—その紙一重の両極性—

→ 途上国における海外教育活動未経験の同僚教員も派遣教員の経験を活かせるようになることが教育現場での「還元・貢献活動」(派遣教員の知見・資源の一般化や活用)

各段階のニーズに対応した組織的支援・活用方策の重要性

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

本調査研究に関する連絡先

文部科学省 平成21年度 国際開発協力サポートセンター・プロジェクト

青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性

発行日: 2010年3月
 発行者: 国際開発協力サポートセンター・プロジェクト事務局
 研究代表者: 佐藤真久

連絡先: 〒224-0015 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1
 東京都大学(旧武蔵工業大学) 環境情報学部 佐藤真久研究室
 Tel: 045-910-2564 / Facsimile: 045-910-2605
 E-mail: m-sato@tcu.ac.jp / masahisato@hotmail.com

◎ 佐藤真久(2010)青年海外協力隊「現職教員特別参加制度」による派遣教員の社会貢献と組織的支援・活用の可能性